

# 本県教育の今後の 方向性について

平成 24 年 11 月 27 日

山口県教育庁教育政策課

## 1 教育を取り巻く状況

- ① 少子高齢化の進行  
→ 社会全体の活力低下
- ② グローバル化の進展  
→ 我が国の国際的な存在感の低下
- ③ 雇用環境の変容  
→ 失業率、非正規雇用の増加
- ④ 地域社会、家族の変容  
→ 個々人の孤立化、規範意識の低下
- ⑤ 格差の再生産・固定化  
→ 一人一人の意欲減退、社会の不安定化
- ⑥ 豊かさの変容  
→ これまでの大量生産大量消費など物質的豊かさの追求に疑問を投げかけ
- ⑦ 東日本大震災の影響  
→ 我が国を取り巻く危機的状況が一層の顕在化・加速化

一方で

### [我が国の様々な強み]

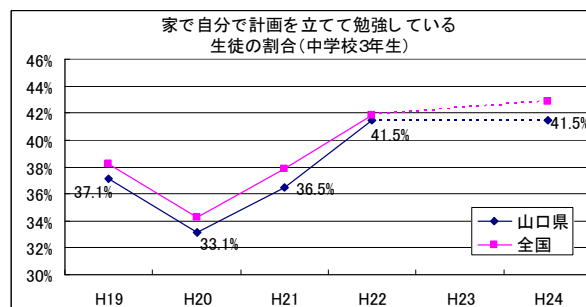
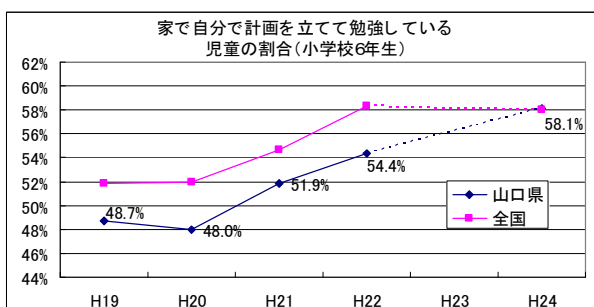
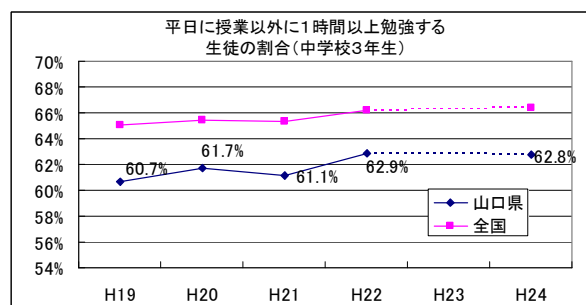
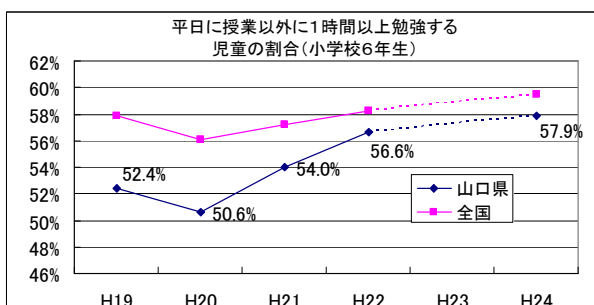
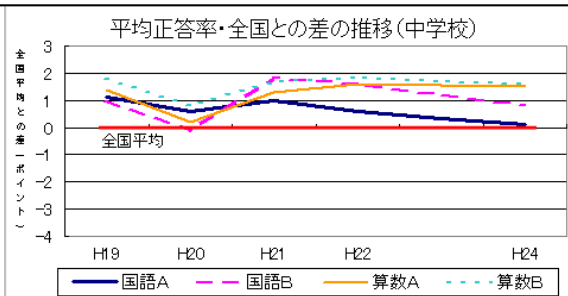
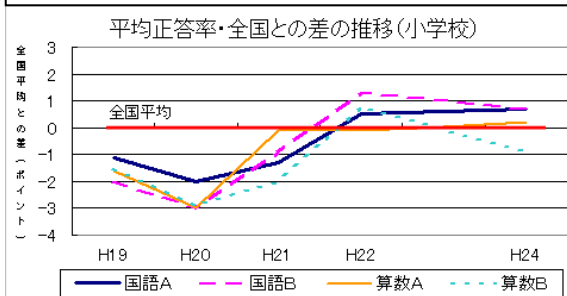
- 多様な文化・芸術や優れた感性
- 勤勉性・協調性・思いやりの心
- 人の絆
- 科学技術、「ものづくり」の基盤技術
- 基礎的な知識技能の平均レベルの高さ

## 2 本県教育の現状と課題

### ① 子どもの学力・学習の状況

#### 現状

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率は、小学校ではH21まで全国平均を全教科で下回っていたが、H22から概ね上回っている。また、中学校は各年度とも概ね全国平均を上回って推移しており、H24調査ではH21の小学6年時点の調査と比較して大きく伸びている。
- 「平日に授業以外に1時間以上勉強する児童生徒の割合」、「家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合」は、小・中学校とも全国平均を下回って推移している。



出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

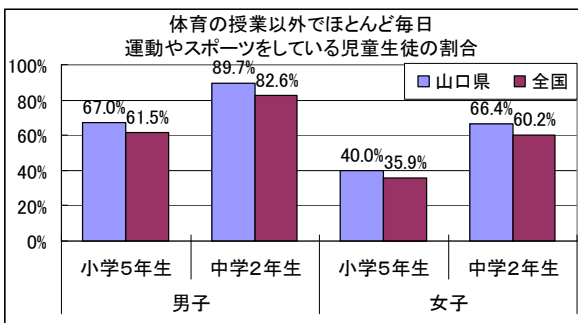
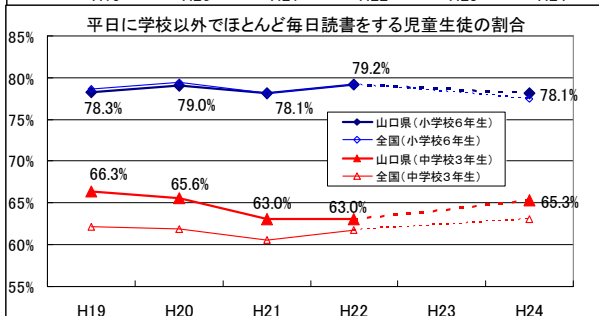
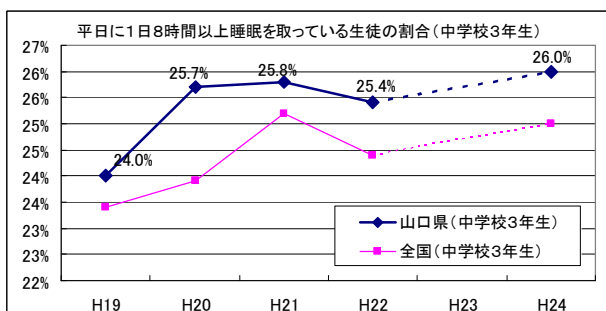
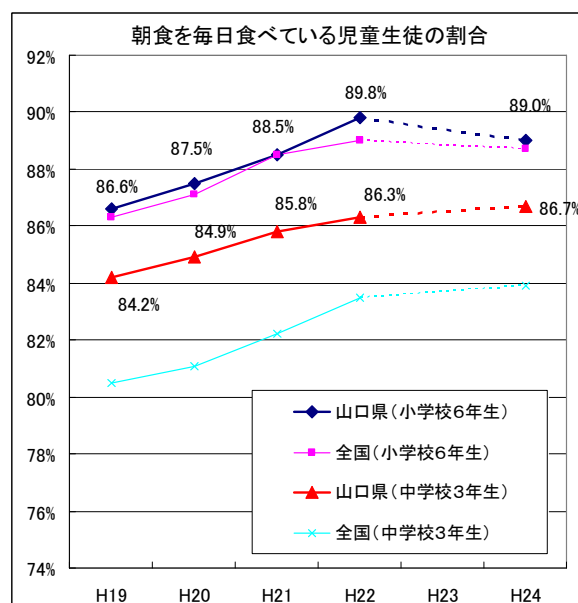
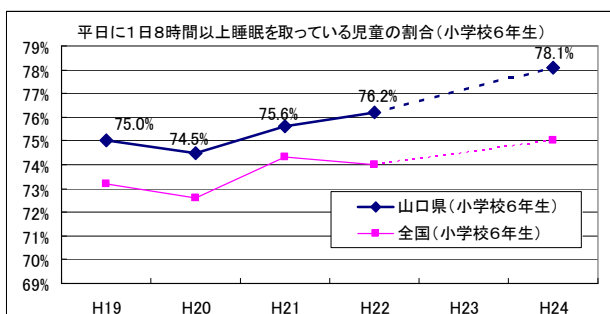
#### 課題

- 基礎的・基本的な内容の一層の定着、活用する力の育成、望ましい学習習慣の確立等、子どもたち一人ひとりの学力の更なる向上が必要

## ② 子どもの生活の状況

### 現状

- 平日に一日8時間以上睡眠をとる児童生徒の割合は、全国平均を上回って推移している。
- 朝食を毎日食べる子どもの割合は増加傾向にあり、特に中学生は本県は全国平均を上回って推移している。
- 平日に学校以外でほとんど毎日読書をする児童生徒の割合は、小学校では全国平均並みであるが、中学校では常に全国平均を上回って推移している。
- 体育の授業以外でほとんど毎日運動やスポーツをしている児童生徒の割合は、男女とも、また小学校・中学校とも全国平均を上回っている。



出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」(運動以外)  
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査(H22)」(運動)

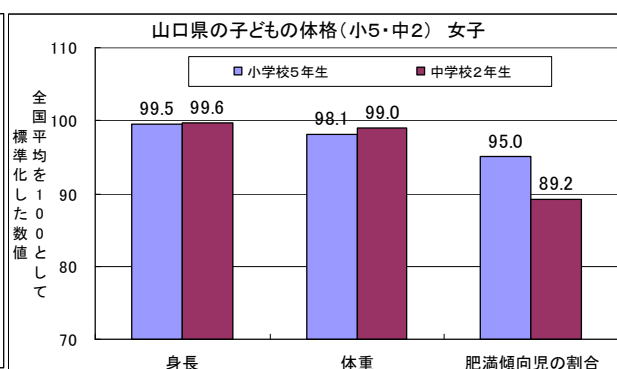
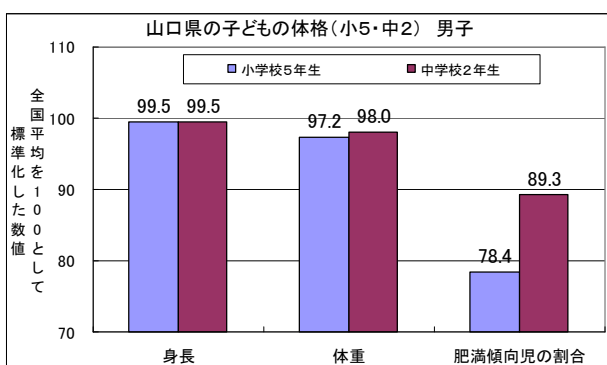
### 課題

- 食習慣、読書習慣、運動習慣を含めた、知・徳・体のバランスの取れた望ましい生活習慣の定着が必要

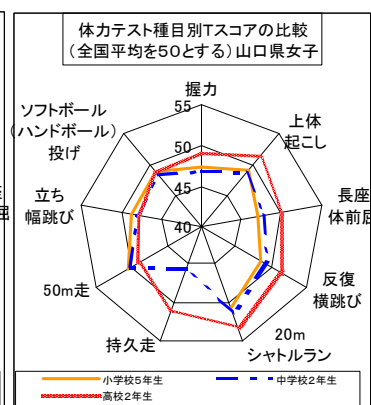
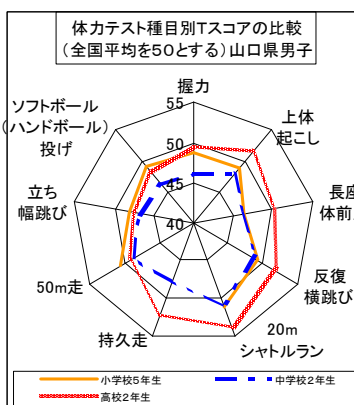
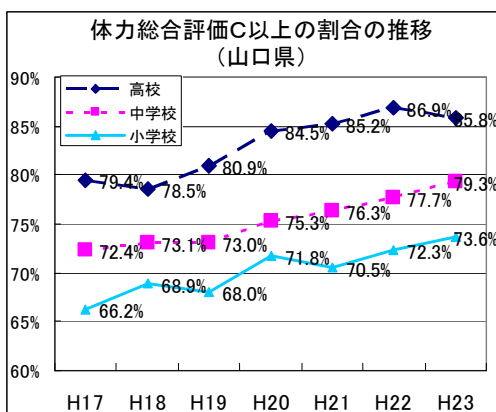
### ③ 子どもの体格・体力の状況

#### 現状

- 本県の子どもは男女とも低身長・低体重の傾向にあり、肥満傾向児の割合が低い。
- 小・中・高とも体力総合評価は上昇傾向にあり、種目別では20mシャトルランが全校種で全国平均を上回るなど、持久力や敏捷性に高い特性がみられるが、筋力や瞬発力、調整力に課題がみられる。



出典：文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査(H22)」より山口県教委作成



出典：山口県教委「体力・生活調査(H23)」

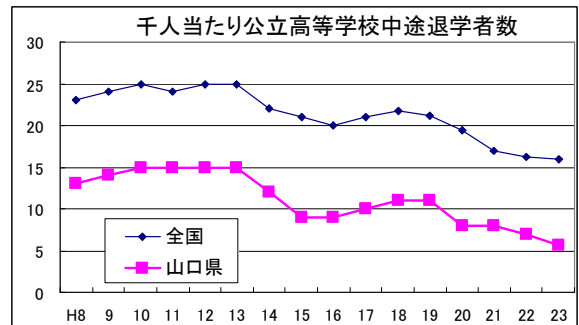
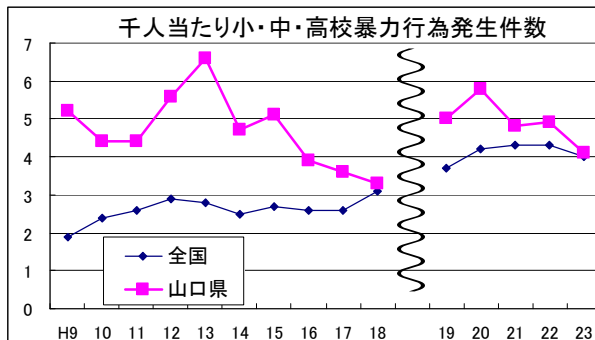
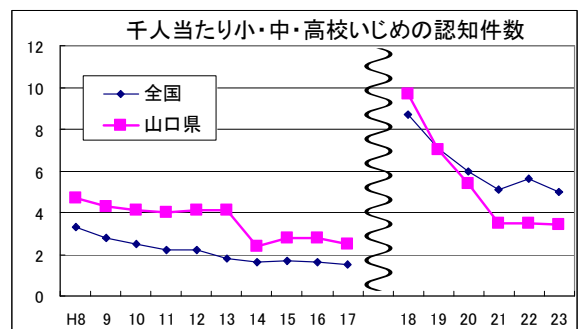
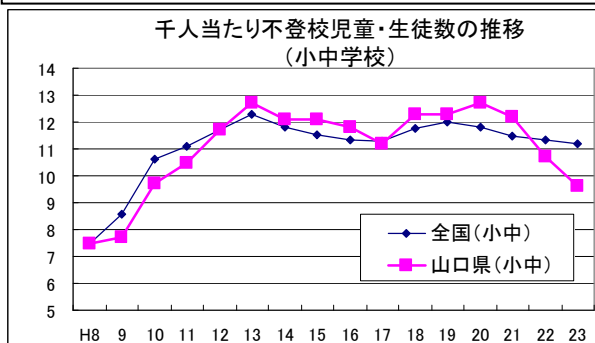
#### 課題

- 子どもの体力が最も高かった昭和60年頃の水準への引き上げのため、体力向上の取組が必要

#### ④ 児童生徒の問題行動の状況

##### 現状

- 本県の千人当たり小・中学校の不登校児童・生徒数は、H13まで急激に増加し、その後横ばいとなり、ここ数年は減少傾向となっている。
- 千人当たり小・中学校・高校のいじめ認知件数は、H18まで全国平均を上回って推移していたが、その後大きく減少している。
- 千人当たり小・中学校・高校の暴力行為発生件数は、全国を上回って推移している。
- 公立高校の中途退学者数は全国平均を大きく下回って推移している。



出典：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

※暴力行為及びいじめは、H17まで公立学校・H18から国公立学校の数値

※暴力行為はH19から、いじめはH18から定義が拡大

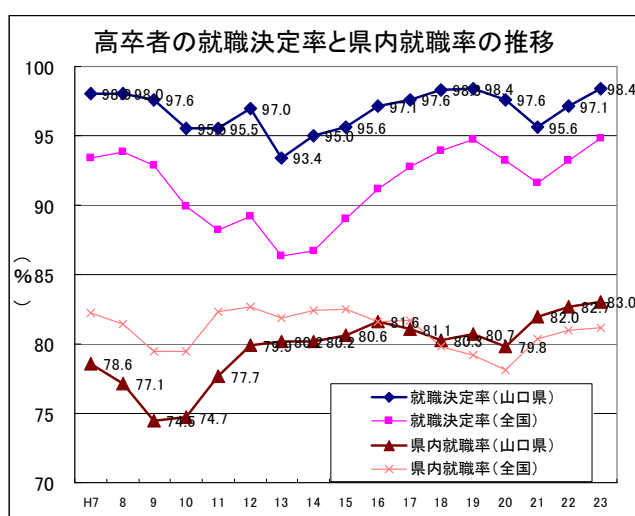
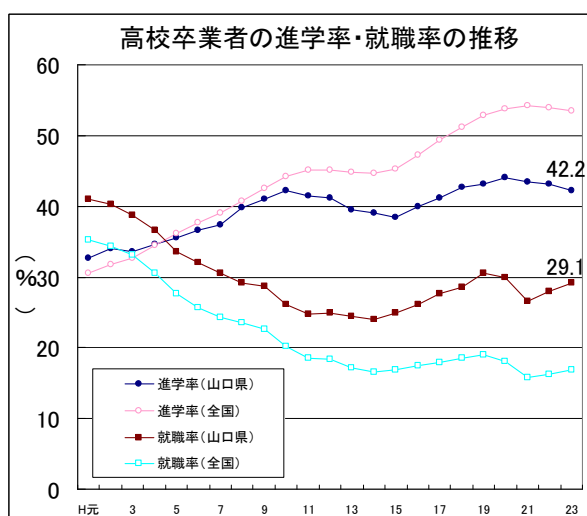
##### 課題

- いじめの未然防止、早期発見、早期対応が必要
- 中学1年生から不登校生徒が急増する「中1ギャップ」への対応が必要

## ⑤ 高校卒業者の進学・就職状況

### 現状

- 本県の高校卒業者の進学率はここ10年ほぼ横ばいであり、全国との差が開いてきている。
- 高校卒業者の就職率については、本県は全国を常に上回って推移している。  
※ 本県の高校の専門科生徒数の割合は全国第6位、工業科は全国第3位
- 高校卒業者の就職決定率も全国平均を常に上回って推移している。



出典：文部科学省「学校基本調査」

### 学科別高等学校生徒数の割合(H23)

	普通科		専門科									
	率	順位	率	順位	農業	工業	商業	水産				
山口県	57.0%	43位	36.2%	6位	3.2%	28位	14.5%	3位	10.9%	8位	0.3%	27位
全国	72.3%	-	22.5%	-	2.6%	-	7.9%	-	6.5%	-	0.3%	-

	家庭		看護		情報		福祉		その他		総合学科	
	率	順位	率	順位	率	順位	率	順位	率	順位	率	順位
山口県	2.4%	15位	1.6%	6位	0.0%	17位	0.9%	4位	2.5%	28位	6.8%	15位
全国	1.3%	-	0.4%	-	0.1%	-	0.3%	-	3.1%	-	5.2%	-

出典：文部科学省「学校基本調査」より山口県教委作成

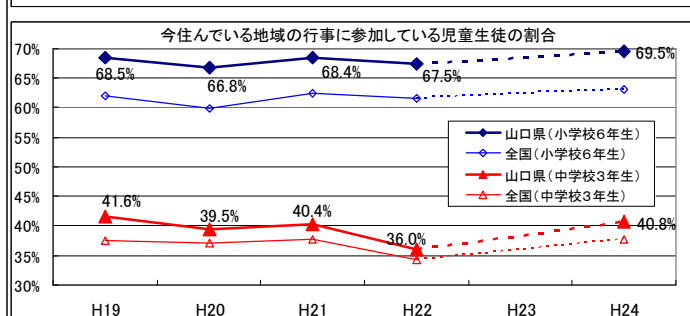
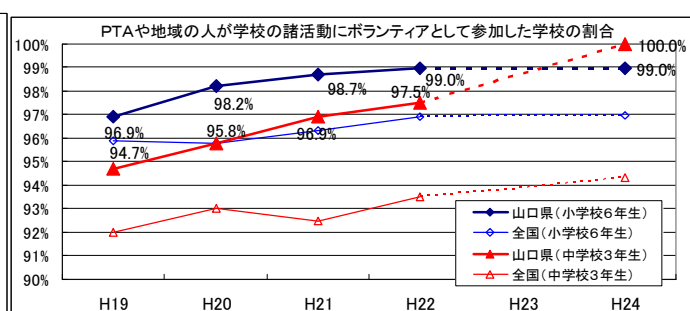
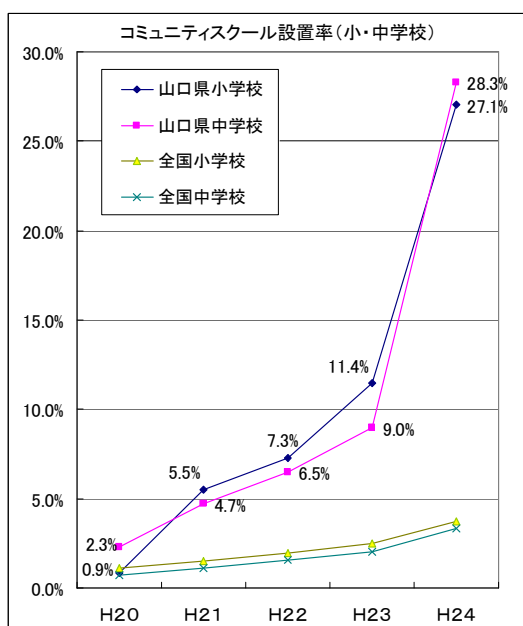
### 課題

- 生徒や保護者に対するきめ細かな相談体制の充実が必要
- 就職指導専門員等と連携した組織的な求人開拓等の推進が必要
- キャリア教育の一層の充実が必要

## ⑥ 地域ぐるみの教育の状況

### 現 状

- 本県のコミュニティスクール設置率は、小学校で27.1%（全国第2位）、中学校で28.3%（同1位）と全国トップレベルである。
- 「PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加した学校の割合」「今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合」は、いずれも常に全国平均を大きく上回って推移している。



出典：文部科学省「コミュニティスクールの設置状況」・「全国学力・学習状況調査」

### 課 題

- コミュニティ・スクールなど、開かれた学校づくりの推進
- 地域ぐるみで子どもを育む仕組み（地域協育ネット）づくりの一層の推進



### 3 重点的な取組

- ① **確かな学力の育成**  
→全ての児童生徒が社会の中で自立して生きていけるよう、確かな学力の更なる向上に向けて、組織的・計画的な取組を一層推進
- ② **子ども元気創造**  
→子どもの「元気」を創造するための「食育」「遊び・スポーツ」「読書活動」を一体的に推進
- ③ **豊かな心の育成**  
→潜在化・深刻化するいじめ問題・不登校等に対応するため、思いやりの心を育む「心の教育」や相談体制等を充実
- ④ **高校生の進学・就職支援**  
→発達段階に応じた計画的・系統的なキャリア教育の推進や組織的な進路指導体制を強化
- ⑤ **地域ぐるみの教育の推進**  
→開かれた学校づくりの推進や、学校・家庭・地域の連携により、地域ぐるみで子どもたちの育ちを支援する「地域協育ネット」の取組を推進  
など

### 4 施策の展開

#### ■施策と主な取組を体系的に整理し総合的に推進

<b>知・徳・体の調和のとれた教育の推進</b>	
■キャリア教育・職業教育の推進	■現代的課題に対応した教育内容の充実
■人権教育の推進	■道徳教育の推進
■体力向上の推進	■食育の推進
■健康教育の推進	■幼児期における取組の充実
■特別支援教育の推進	■学習指導の改善・強化
■少人数教育の推進	■進路指導の充実
■読書活動の充実	■体験活動の充実
■生徒指導・相談体制の充実	

<b>質の高い教育環境づくりの推進</b>	
■学校施設の耐震化の推進	■学校安全の推進
■校種間連携・一貫教育の推進	■教育支援機能の強化
■教職員の資質能力の向上	■県立高校将来構想の推進
■学校運営の活性化	■私学の振興
■修学支援の充実	

<b>生涯にわたる県民総参加の教育の推進</b>	
■世界スカウトジャンボリー等を通じた青少年教育の充実	
■地域と学校の一体的な取組の促進	■子どもの育ちを地域で支える取組の推進
■生涯学習の推進	■家庭教育の充実
■文化にふれあい親しむ環境づくりの推進	
■文化財の保護と活用	■生涯スポーツの推進
■競技力の向上	■スポーツ環境の整備

## 5 今後の方向性

社会・経済情勢の急激な変化に対応し、将来を担う子どもたちが志をもち主体的に自らの未来を切り拓くとともに、これからの地域や社会を支えることができる「人財」を県民総がかりにより、育成することが必要

### [キーワード]

少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化、景気の長期低迷、規制緩和、雇用環境の変化、東日本大震災

小1プロブレム・中1ギャップ、大学全入、家庭・地域の教育力の低下、規範意識の低下、キー・コンピテンシー など

### ※ 知識基盤社会

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会のこと。（平成17年の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で示された言葉。）答申では「知識基盤社会」の特長として次のようなことを挙げている。

- (1) 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む。
- (2) 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる。
- (3) 知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる。
- (4) 性別や年齢を問わず参画することが促進される、など

### ※ 小1プロブレム

小学校入学直後の児童に見られる問題行動。授業中に落ち着いて話を聞くことができず、騒いだり、歩き回り、注意されると感情的になるなどして、集団行動がとれず、学校生活に適應できない。制約の少ない幼稚園・保育園と規則の多い小学校の環境の格差、家庭教育の欠落・不足による基本的な生活習慣・自制心の獲得の遅れなどが原因とされる。

### ※ 中1ギャップ

小学校から中学校に進学したときに、学習内容や生活リズムの変化になじむことができず、いじめが増加したり不登校になったりする現象。

小学校までに築いた人間関係が失われる、リーダーの立場にあった子どもが先輩・後輩の上下関係の中で自分の居場所をなくす、学習内容のレベルが上がるなどの要因が考えられる。

### ※ キー・コンピテンシー

将来の社会において生きていくために主体的に参加していく能力で、将来を担う子どもたちに必要な能力として、OECDが提起した概念。以下の3つの内容からなっている。

- (1) 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力
- (2) 多様な集団における人間関係形成能力
- (3) 自立的に行動する能力